

語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 前米大統領の英語 (34)

(A Basic Way of Reading Trump-Language)

後藤 寛

元々、字数制限のあるインターネット Twitter であるが、次は段落ごとに同じ日に3回に分け書かれた Trump 前米大統領の tweet である。ここでは一括提示し、今回も object language (対象言語) たる彼の特徴ある英語を Basic という高次の metalanguage (メタ言語) [あるいはさらに1歩深めた「メタメタ言語」(meta-metalanguage)と呼んでもよい] を尺度に見ていく。やはりメキシコ国境の壁に関するものである。

The Crazy and Dishonest Washington Post again purposely got it wrong. Mexico, for the first time in decades, is meaningfully apprehending illegals at THEIR Southern Border, before the long march up to the U.S. This is great and the way it should be. The big flow will stop.

However, if for any reason Mexico stops apprehending and bringing the illegals back to where they came from, the U.S. will be forced to Tariff at 25 % all cars made in Mexico and shipped over the Border to us. If that doesn't work, which it will, I will close the Border.

This will supersede USMCA. Likewise I am looking at an economic penalty for the 500 Billion Dollars in illegal DRUGS that are shipped and smuggled through Mexico and across our Southern Border. Over 10,000 Americans die each year, sooo many families destroyed! (April 5, 2019)

▲最初の段落は「Washington Post (ワシントンポスト紙) が故意に馬鹿じみた報道をしているが、メキシコは何十年も経ってやっと不法移民が米国側へ向けて来る前に、彼ら側の国境で移民を拘束し始めた。こうしなければならないのだ」という内容である。

次の段落は「それでも何らかの理由でメキシコがこれをやめ、出身地へ彼らに戻さなくなったら、米国はメキシコで製造され輸入する自動車に 25%の関税を課す。うまくいくとは思いますが、だめならやはり国境の閉鎖だ」と言っている内容。

最後の段落は「これは新 NAFTA (North American Free Trade Agreement : 北米自由貿易協定) として USMCA (United States- Mexico- Canada Agreement : 米国・メキシコ・カナダ協定) に先がける問題だ、違法な麻薬密輸には五千億ドルの経済的罰則を課す。メキシコ経由で南の国境を越えて麻薬が密輸される。毎年、一万人以上の米国人が麻薬で死亡し、多くの家族が破滅しているのだ!」という内容。

第1段落中で下線とした THEIR は語強勢として示されている。しかしこういう場合の流動的な強勢の置かれ方を執拗に固定化してとらえると混乱が起こり、危険であることはこれまでもたびたび言ってきた。

第2段落中の下線部では移動(from, to)のうちの戻る移動(back)であり、語配列に注目しておくといよい。これが英語での言い方である。

第3段落中の through と across の使い方には注目されるべきである。through Mexico and across our Southern Border (メキシコ経由で南の国境を超えて) と and を挟んだ

重層的な経路(path)の描写法である。移動をイメージ化する必要がある。

こういう移動事象(motion event)におけるモノの移動経路に関しては昨年度の本会 Year Book (No.72)でその母型(matrix)と3つの類型(types)をパターンとして提示し扱った。ここで以下にそれを部分的に改めて転載しておく〔詳細は *Year Book* (同) 参照〕。

モノの移動の軌跡を<FROM S THROUGH [PAST] P TO G> [* S (Source), P (Path), G (Goal)], すなわち起点(Source : S)・経路(Path : P)・着点(Goal : G)の3つから見るとともに、深層意味素(deep lexemes)の<FROM>, <THROUGH>, <TO>による移動状況の仮説的な母型 (matrix)をまずは提示してみる (<THROUGH>は<PAST>としてもよい)。

・移動事象 (Motion Event : ME) :

母型 [FROM <HERE / THERE> α THROUGH [PAST] <HERE / THERE> β TO <HERE / THERE> γ]

これは<from α through β to γ >, すなわち **Something makes its way from α through [past] β to γ .** 「あるモノが起点 S の α から経路 P の β を経由し着点 G の γ に至る」を意味するモノの移動状況の基本パターンで、この状況を直示的(deictic)な HERE / THERE で示したものとなる。たとえば文 John went to the station. He is at the station now.では起点 S も経路 P も特定されず、着点 G (ここでは the station) のみが表層上に表出する例で、情報提供上の旧情報(given information)・新情報(new information)が関わっている。なお、着点 G の γ の状態は be **at γ now** [then]で表せられる。

上の母型／基本パターンから派生的に3つの類型 (types)が考えられる。私案として次に示してみる。実践面ではこれを pattern practice で内在化(internalize)するのである。

類型

(A型)

(S)	P	G
(from <HERE / THERE> α)	<ul style="list-style-type: none"> ・ up <HERE / THERE> β ・ down <HERE / THERE> β 	to <HERE / THERE> / (at γ)

・ 文例 : From here it is coming **up** my hand **to** the top of my arm. (It is **at** the top of my arm now.)

(B型)

(S)	P	G
(from <HERE / THERE> α)	<ul style="list-style-type: none"> ・ back (⊕ up, down, round, across, etc.) <HERE / THERE> β ・ up and down <HERE / THERE> β 	to <HERE / THERE> γ / (at γ)

・ 文例 : From here it is going **back down to** my hand. (It is back **at** my hand now.)

(C型)

(S)	P	G
(from <HERE / THERE> α)	(right) / (all the way) / (halfway) / (far) /, etc.	to <HERE / THERE> γ / (at γ)
	<ul style="list-style-type: none"> • ⊕ (up), (down), (back) • ⊕ round, across, up and down, etc. • (⊕ over / under, etc.) 	
	<HERE / THERE> β	

・ 文例 : From here it is coming right up over my hand to the top of my arm.

(It is right back at the top of my arm now.)

表中の括弧付けの語(句)は任意であることを示している。また、表の下に提示した3つの文例で、it の3つの移動を1つの移動としてとらえると次のようになるが、一般に起点 S は埋没し、括弧の部分は省略される。状況としては①まず何か(モノ)が手を伝って肩のほうへと移動、②次にそれがまた戻っていき手まで移動、③そして今度は再び元の肩の位置まで移動を起こす。そういう状況である。移動を起こすモノは何でもよいが、衣類の取り付け・取り外し、すなわち日常的なその着脱であれば、たとえばジャケットの袖(片袖)に手を通すことを繰り返す動作(しぐさ)を遠近法的に想定・イメージ化すればよい。

A型は移動事象 ME での経路の P 描写で up / down (上下) の空間方位を指定する型である。英語では方位が上(up)か下(down)かは重大問題でこの思考型は基本となる。

B型は移動経路 P が逆戻り(back)となるとともに、方位が垂直の上下(up / down)ばかりでなく角度の変わることを描写する型である。垂直方位の場合も上(up)か下(down)のいずれかばかりとも限らず、逆戻りを含む両方向 (up and down) の移動もあるときの型である。逆戻りも直線ではなく曲線を描いたモノの移動の場合には、空間詞 round が重層的に並列される。たとえば回転寿司店で目的の寿司が目の前を通り過ぎてしまい、次に再び戻ってきたときにそれを取ろうと思えば Oh, I'll take that one when it comes back round. と back の後ろに経路 P の round (Basic ではなく full English なら around) が並置されねばならない。これは着点 G を言う ... back round here とか、... back round to me のようなものではあるが、here, to me などは一般に表層上には具現しない。

C型はA型とB型の折衷型であるとともに、場合により right, all the way, halfway, far などで程度のニュアンスを加え移動経路 P を描写する構造である。空間詞が3層をなし連なるが表の下に提示した文例のように、着点 G を指定する to は、経路 P を描写する空間詞とは遊離する構造型である。— [以上、概略的に *Year Book* (同) より転載]。

上の tweet 文での太線語 supersede の意味は? 本連載は Basic の統語法と Basic (850 + α) 語の知識さえあればほぼすべての英文が理解できるはずという趣旨にのっとっている。super からだけでもおおよその意味推測はできるが、sede は本連載(1)の③で見た PIE

etymon の音素形/SED/からで「座ること」が原義。これから多くの英語が派生したが、supersede は「上に座ること」→「優先的となる」の意味である。同系語に Basic 語 **seat, side, etc.**、プラス α Basic 語 *sedimentary* (堆積物の)、un-Basic 語 sit, settle, set, saddle, site, situation, cathedral, etc. がある [拙著(2016)「松柏社」、第二部、例(63)参照]。

太線の un-Basic 語 each は実は Basic 語 **every** と同系であるが、違いにも注目しておくといよい。each は 2 または 3 つ以上のものを個別的にみる。every は 3 つ以上のものを用いる。たとえば、2 本ある手で each hand とは言えるが、×every hand とは言えない。強意で each and every という言い方もある (他の例、each and every year)。

なお付け加えておくが、上の pattern (パターン) 化により示した移動事象の母型・類型は、いわゆる社会的な structural linguistics (構造主義言語学) 的な見方と結びつく。言語習得における pattern の発見は repetition (反復) により獲得される habit (習慣) [社会的慣習(social custom)] と言える。人間は鳥のオウムとは違うヒトである。オウムはヒトの言語を反復するだけである。ヒトは「反復から pattern を発見する」種 (しゅ) である。「オウム(parrot)」と言ったが、実は parrot は pattern と同系語で -ot (= small) は指小辞であり、人名 Peter の愛称語でもある。

本連載(31)で若干触れたのであるが、文書 (ドキュメント) の readability (可読性) はアメリカの R. Flesch & P. Kincaid の分析法などが参考となる。これを基に上の Trump 氏の tweet 文の読みやすさの度合い(grade level)を調べてみた。指標となる Flesch Reading Ease Score (FRES) は 59.5 (最高値 100)、そしてこれの Flesch-Kincaid Grade Level (F-KGL) は 8.8 という結果が出た (5~16 がアメリカの学年レベルでほぼ小学校 5 年から大学 4 年までを示す)。2 つの数値 59.5 と 8.8 を基に総合的に考えれば、上の Trump 氏の tweet 文は学年レベルとしては 10~12 学年のレベルに相当すると考えてよからう。すなわち、この Trump 氏の tweet 文の readability はいわゆるアメリカでのハイスクールレベルということで、特に難しいレベルのものではないことになる。FRES と F-KGL の難易度算出法の公式は次のものとして知られているので、それを提示しておく。

<ul style="list-style-type: none">・ FRES : $206.835 - 1.015 \times (\text{total words} / \text{total sentences}) - 84.6 \times (\text{total syllables} / \text{total words})$・ F-KGL : $0.39 \times (\text{total words} / \text{total sentences}) + 11.8 \times (\text{total syllables} / \text{total words}) - 15.59$

もちろんこれは一般の英語文の場合の分析上の一尺度である。一方でこれと対比的に、Basic 文の場合での readability (可読性) がどのようなものか? である。いくつかデータを収集しているが、興味深い研究の 1 つだと考えている。関連してさらに発展的に、音声面から特別に 1 音節語の多い Basic 文の audibility (可聴性) の問題も今後の研究テーマとなる [Basic 本体 850 語の平均音節数は 1.49 (同上拙著、第一部、pp.8-9 参照)]。

最終的にはやはり Basic は語彙制限のゆえ hapax (ハパックス) 比率が低い、すなわち hapax legomenon (nonce word) (孤語・臨時語) が少ない [tautology (同語反復) が多い] ゆえ readability, audibility 共に平易という結論になるはずである。Basic の音声に関しては拙稿(2009)「Basic English と音声：聴覚神経レベルからのアプローチ」 [研究紀要 No. 16, pp. 8-21、日本ベーシック・イングリッシュ協会 (名称は当時)]、また拙稿 (同) 「入門期の英語と Basic English」 (News Bulletin No. 61, pp. 28-38) で扱っておいた。